

刊夕日一廿月一十

常警每日新聞

定価 一冊五銭 金五銭 郵費五銭
廣告料 五銭 十二銭 一ヶ月 五拾銭
日曜祭日の日 休刊
発行所 常警毎日新聞社
印刷所 常警毎日新聞社

入營兵を送る

平町長 青沼 鋒太郎

一天碧落たる晩秋の空を仰き肅殺の氣人に迫る縣社子鐵倉神社の大前に於て本年入營兵小野正二君外三十名の祝福せられたる壯途を饒げせんがため嚴かなる祭儀を行ひ、爰に清楚なる送別の筵を開く事を得たるは頗る欣快の至りに堪へず諸君は今戒衣の人とならむとして勇氣に満ちて大地に起つ颯爽たる諸君の英姿は至純至高なる祖國愛の現顯にして、民族意識の生む不撓不屈の姿なり、誇るべきは建國三千年節義心一億民克く忠に克く孝に醇厚の質と剛健の風は國の精華にして燦として東亞の天地に君臨す、吾等の父祖變葉悉く帝國の地を踏み栗し食み國民その族を同ふし博愛の高唱、人道の擁護とは日章

ノート

毛糸編や
毛織物は
一枚毎に
新聞紙に包んで仕舞ふと
蟲のつくのを防ぐ。

旗の赫耀たる帝國の象徴として英雄日本の雄々しき出現は正に巨人の椰子吼なり然れども由來喬木に風多く先驅者に受難多し、陰險な

べし。惟ふに忠節の士は安泰なる社稷の上に輝き、天佑の國は自信ある國民の上に全し、今諸君は神前に於て干城たるの使命を盡し、神明に誓ふて、謹みて聖旨に奉答す、寔に郷黨襟を正して舉國戮力、奉公の誠を致さむことを想はしむ。希くは諸君頑健以て精勵勉勵なたむことを聊か微衷を陳べて送辭となす。



生きよ若者
飯村 閑舟

生きよ若者
黙々と
心の土を
掘り返せ
○
追ふな飾るな
はなやかさ
じつと耐へた
道を行け
○
成るよ成るとも
正しさを
レールに外れずに
行けばよい
○
生きよ若者
のびのびと
暗い影さへ
なげりやよい

鑑定 家相 地相 人事 占断
十一月廿二日 壬辰五黄
友引取ル

【白】營業上損害を蒙る事あれば契約及取引は明日が吉南北凶【二黒】病氣怪俄紛が徳策未申丑寅凶【三碧】金錢問題より家内に争論を起す事あれば柔順が吉東西凶【四綠】金談縁談取引等他より横槍が出て損害を蒙る事あり成交と涙己凶【五黄】運氣滞滞の日なれば萬事控目にして病難苦狀に注意【六白】金談縁談取引總て約束事は明日が吉辰己と戌亥凶【七赤】我希望に猛進して吉を凶に醸す事あれば萬事明日が吉東西凶【八白】病氣怪俄紛失盜難に注意して萬事控目が吉未申丑寅凶【九紫】我望事は總て調ふの吉日なるも約束事は明日が吉水火の難に注意して南北凶

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではあまりせん
平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重子
女醫 川井安子

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科
平南町 (電話一七〇番)
大和田醫院

印刷御用命
常警毎日印刷株式會社
電話三〇三六番

看護婦急派
の求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

かまぼこ製造
お惣菜用
さつま揚
吉原揚
平町一丁目
電話一四一番

別仕立コート
今秋冬の尖端
自然美を機に上せて
織なせる卓越せる生地
を念入りに仕立ました
三井呉服店
電話 3284

輪界の王座
サビナイ自轉車
富士自轉車
國際自轉車
指定販賣所
フタバ商會
平・新川町・橋際

平其濟費に

平消防寄附

先般の演藝會

純益百廿圓を

既報平消防組が平町に於ける共濟事業を助成する爲め去る十八日聚樂館に催した慈善演藝大會の總收入額は會員券收入三百四十八圓九十錢、祝儀十八圓、合計三百六十六圓九十錢に達したが内支出總額は合計二百四十三圓八十四錢にて差引殘百二十三圓六錢を平町共濟

事業助成會に寄附したと因に支出内譯左記の如くである

(藝妓屋組合謝禮) 七〇、
(募集費) 三三、三九
(裝飾費) 三一、五〇(舞臺及人夫料) 三九、八〇(印刷料及筆墨費) 二七、八〇
(雜費) 四一、三五

柿の罐詰を研究

酸化作用防止に苦心

販賣上の進出

神谷農事試験分場では郡下産柿屋柿加工保存法として柿の罐詰製造を企て矢ヶ崎技手が目下苦心研究中であるが罐詰としての柿は四ツ切りとしたものを一罐に二箇乃至三箇を入れ其に柿獨特の甘味ある露を加へてバナブル罐詰の如く製するものにて目下試験的に罐詰を利用し其の保存法を種々研究中であるが最も怖れるの



巷の話題

犬の登樓よいか

新潟縣新津郷金津倉島鶴次(三)は近隣名うての酒飲みだが又非常な愛犬家で日常妻君よりも犬を大切に日夜は自分の寢床に入れるの犬すきで、徒然のまゝ

は罐から生ずる酸化作用の爲め中味が黒變し易く是れが防止の研究に最も苦心して居るが成功すれば販賣上に一大變化を來すものと見られ其の成果如何は今から注目されて居る

災害復舊

工事大体完了

平土木監督所の本年度災害復舊工事として工費五千六百餘圓を以つて着工中であつた藤原川下流小名濱町字

警中生の志望校

目下二時間宛準備教育

既報去る一日より毎日放課後二時間宛受験者の爲め準備教育をしてゐる警中では此程四、五年生四百二十六名に對し夫々志望別を調査したが志望校は左の如くである

- 高等學校三七、工業學校三一、大學豫科、師範二部各二七、高等師範二五、士官學校一八、大學専門一六、高等商業一一、海軍兵學校、商船學校各一

辯別地内の河川工事は昨日を以つて竣功し同所管内本年度災害復舊工事は平町地内古川を殘すのみで全部終了した

小川信用組合

日用品購置

小川信用購置組合では來る廿五日同村小學校に役員の打合會を開き組合事業擴充を計る爲め明年度より日用品雜貨販賣部設置の件について協議する

警中出身會田氏

海軍 少將に昇進

警中出身の左記海軍士官は過般の部内異動に依り夫々の如く昇進した旨本日母校宛通信があつた

軍醫少將
第一回 會田 常次

- 主計中佐 第十回 長谷川 清
- 少佐 第七回 鳴 遊波夫
- 同 第七回 吉田 英三
- 第九回 吉田 英三

濱三郡農作物の本郡入賞者氏名

既報去る十八日より相馬農業學校に開催した濱三郡農作物評會の審査は昨日執行郡下よりの出品入賞者左の如くである

(牛券) 二等平鈴木良平、三等平鈴木武彌、鈴木利彌、四等 好間 鈴木武正 (葱) 二等平鈴木良平、四等神谷鈴木秀明(人參) 三等好間根内孝正(芋) 四等神谷鈴木季太郎(梨) 三等平根本久光、四等箕輪 鯨岡忠助

婦人會の幹部講習

本縣主催で平町に

平婦人會では濱三郡に於ける婦人會の幹部講習會が來る二十九日午前九時より第二小學校に於て本縣主催の下に開催される事になつたので本日午後一時より第二小學校に於て本縣社會教育主事佐藤庸男氏臨席の下に幹部會を開き種々協議した

一冊の代金で御希望通りな五冊の雜誌が自由に讀める川崎回文庫 電話六三〇番 (申込次規則書進呈)

庭球選手 慰勞會は

明夜丸友に

明怡神宮大會に出場した警中及び平商の庭球部選手慰勞會は明日午後六時よりマールトモホールに於て開く事になつたが會費は一圓で一般人の參加を歓迎する由

小野書記出福

平區裁判所監督書記小野榮一氏は既報の如く福島地方裁判所に於て開かれる管内區裁判所書記及び供託局長會議に出席の爲め今朝平發五時四十二分にて出福した

その夜白河署の特別警戒に引掛つた男、金をすられたとの申立が怪しいのでよく取調べて見ると、それは眞ッ赤な嘘、クルワ歸りを唯何されたバツの悪さに出鱈目を申立てたものと判り「ガチャーン、そこに入つてろ」……右は仙臺市新弓町堀部政次郎(四)といふ薬屋さんだけに言ふことだけは

うまいもの「ハ、嘘の薬がきつ過ぎたかな？」 おだてに乗る男 名古屋市西區則武町石山幸三郎はかねて同區米野町料亭則武屋へ百三十圓で蓄音機を賣り込んだが則武屋では内三十圓を拂つただけで、どうしても殘金を拂はないので憤慨したが自分で

あばれ込む程の腕の自信もなく、同町、橋本正二郎といふクリカラ紋をおだて上げ「素晴らしいもんだ、その勅青なら頼むに足るぜ」と則武屋に乗り込ませて頼むに足る所を勇敢に發揮させ二人とも取調べられてゐる

産科 長 院 木村寅次郎
婦人科 醫學博士 内木宗八
外科 藥劑師 立 番 彌 一
平町新川町十九
入院隨意 病室完備
水村病院
電話一六四番

愛婦會員 倍加運動

平町で大奔走

早くも申込續々

平町には現在七百餘名の愛國婦人會員があるが明年四月の縣下總會迄には會員を倍加すべく目下平町役場吏員並に愛國婦人會幹事協力して會員募集中であるが早くも新加入會員百餘名に達し尙申込みが續々ある由

水上警察の 實現前提として

第二福島丸の常設を熱望

小名濱町では本廿一日午前十時より町會を開き海面附加税額決定並に第二福島丸小名濱常置方陳情の件其他を附議するが第二福島丸は密漁監視船として目下東京淺野造船所で建造中であるが同港に常置されるとなる

平商生實習の爲 白菜の委託販賣

來る廿五日より二日間

設置以來好成绩を擧げてゐる平商業學校實習販賣部では更に生徒の實地指導の爲め街頭に進出する事となり來る二十五日より二日間二丁目ウシク洋服店東隣に臨時の店を張り服部、武川、教諭指導の下に田村郡飯豊、兩村農業組合の白菜委託販賣をする由にて部員は全部五年生、時間は第一日が午後一時より八時迄、第二日目が午前八時より午後四時迄である

演習地の調査

平在郷軍人分會長藤田中尉及び青年訓練所石城聯合會長篠

山康の兩氏(ば)は二十二、二十三の兩日植田方部に於いて舉行される郡下青年訓練所聯合發火演習の實地踏査の爲め本日午前十時四十分にて出張した

平商卒業生 本年度入營

平商業學校の卒業生中本年度入營者は左の如くである

- 朝鮮咸興歩七十六聯隊幹部候補生小野正二、宇都宮騎兵十八聯隊現役志願森田正光、仙臺輜重兵第二大隊輜重特務兵渡邊三千雄

無免許のニセ獸醫

平氣で馬の手術を行ふ

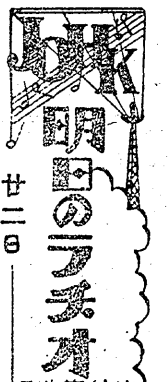
發覺して獸醫法違判に

小川村字上小川字植ノ内二二居住織織工富谷源郎(四六)は去月十日同村字關場松本甚太郎所有馬を無免許で診斷した上手術を行つた事發覺し平署に檢舉されたが同人は昭和五年十月以來無免許獸醫を密かに働いては診察料をせしめて居たもので獸醫法違判として嚴重取調中

住み込んだ翌日 前借を踏み逃走

市金町川又ハナ(三)を女給に紹介し前借金四十九圓五

平町三丁目カフエー花月事久田好雄方へ本月三日水戸市久保町鈴木一郎(三)が同十錢を受けたが鈴木は翌四



明日の天気

今晚も明日も北西の風天気良き見込

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間)「おとぎばなし笑ひの先生」柳家金語樓 佛語講座(十九)目黒三郎
- 後七、三〇講演「祖父根本通明を語る」根本通志
- 後八、〇〇掛合断 諸藝
- 後八、三〇うた澤一、わか

警中操行査定

警中では來る二十九、三十の兩日第二學期の操行査定會を開く

- がものと唄 哥澤芝小喜代
- 後八、四〇獨唱「若き日の夢」渡邊光子日本ボリ
- 後九、〇〇連續講談「菅原天神記」(第二席)旭堂南陵
- 後九、三〇時報 ニュー
- 氣象通報 番組組報告

- 前七、〇〇基礎「英座」(三十一)岡倉由三郎
- 後九、一〇料理献立「榮養料理」宮城縣社會課發表
- 後〇、〇五滿州より「滿州の氣象觀測事業に就いて」滿州國中央氣象臺長後藤一郎
- 後二、〇〇家庭大學講座「私の感銘を受けた書」中村武雄
- 後五、三五 受驗講座「代數」松村定次郎
- 後六、〇〇講演 大日本聯盟青年團常任理事 田澤義輔
- 後六、二五ことばの講座「古典と現代語」島津久基

- 子供の夕
- 後七、三〇室内樂 アル
- 後七、四〇童話劇「子供繪本」名古屋一ツ星童話團
- 後八、〇〇木琴獨奏 朝吹英一
- 後八、一〇童話劇「瓦さばき」東京放送童話劇協
- 後八、三〇童話 嘉數玲子
- 後八、四〇童話劇「くり栗坊主」影繪座
- 後九、〇〇連續講談「菅原天神記」(終)旭堂南陵

女教員視察

平町各校を

石城郡第四部四倉、草野大野、大浦、高久、夏井、豊間、神谷各小學校の女教員約五十名は來る十二月一日平第二小學校に於ける女子教育の實況及び其他種々視察の爲め來平すると

眞暗闇の坑内で 走りて來た炭車に衝突

打ち處悪く絶命

好間村大字北好間字堂田居往剛妻小田炭鑛難失石橋キミ(三)は去る十九日午後四時頃小田炭鑛第一坑内の暗闇の中で前方より疾走し來つた五臺連絡の空炭車に衝突腹部其他を強打されて昏倒し隅田川病院で應急手当を受けたが廿日朝絶命した

滿鮮の視察談

各學校教職員の月次修養會は來る二十七日午後二時より第二小學校に於て例會を開き内郷高坂校長佐藤一氏の滿鮮視察談を聴く由

長瀬氏逝去

植小路長瀬廉平氏は病氣の爲め療養中の處本日午前八

- △女中 三十迄 尋卒 月五圓(平町某)
- △豆腐賣子 三十迄 尋卒 給料歩合(平町某)
- △小商店員 十五才 尋卒 仕着小遣(平町某)
- △炊事夫 六十迄 尋卒 月五圓(某炭鑛合宿)
- △回職を求める方
- △看護婦見習 高卒 給料面談(植田町某)
- △自動車運轉手 二十二才 尋卒 給料面談(平町某)
- △菓子店員 三十五才 高卒 給料面談(平町某)
- △女中 十八才 高卒 給料面談(江名町某)

平職業紹介所報告

回人を求める方



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第九十五回

血に飢ゆる村正

百人斬の結末

次郎左衛門が千歳屋の屋根へ上つたのを見て
丙「ヤア屋根へ出やアがつた、殺つてつちまい〜」
と大勢が騒ぐ越前守此處へ御出でになつて

忠彌を召捕る時に鶏卵の殻にいら砂を入れて眼潰しを投げたと申しますがさうではありません、罪人が如何様なものであつても白刃を携へて居つても、一番手二番手三番手まで十手で捕なればなりません者で、是

つて下へ突き落さうとしたけれども、殺してはなりませんからヒョイと次郎左衛門の鼻先へと出しました、スルト梯子を次郎左衛門が握つた、擱んだ途端に此方で引く、向ふは已れの方へ引かんとして互に競合つて居る内に、速くも三人梯子を掛け駆上り突然六尺棒を持つて装首へ突き込んで召捕り、村正の一刀が屋根に突通してあるのを取上げて了ひ「神妙にしろ」これから致して物干へ引き摺り落し此處に於て繩を確つかと

に相成り、これより御検視方植木榮左衛門、森本銀藏の兩人出張し、その他北の御奉行の方よりも同じく差添の検視が参りまして、多く斬られましたから、中々餘程の手間入もありました一々是を認めて越前守殿の許へ届ける、越前守是を持つて御老中へ上申に及びました、扱てわ此方は次郎左衛門、御牢内に於て種々取止めさせん事を言つて居るから其儘に致して置きました、程なくして御呼出しに成つた、勿論次郎左衛門覺悟の上であるから、包まず是までの事を申し上げました、そこで數日の後改めてお呼出しになり其方儀金銀を芥の如く使ひ捨て遊興に及び候上多くの人を害め上役人に手向ひに及び候段不届きに思召し市中引廻しの上淺草に於て獄門と申渡されましたが御牢内へ歸り遂に牢死を致しました享年三十四才でございます同人が牢死をして見れば仕方がないが、法でございますから鹽漬に致して次郎左衛門は獄門に出たと云ふ事でございます、萬屋左次右衛門は是までの扱ひ假令女房が致したにもせよ、主人が知らんといふ事は申されません、依て飲所の上江戸構ひといふ事に相成りまして會所の四郎左衛門萬字屋三右模門事は別に構ひはありませぬ、寶生榮之丞の死體は少々の縁りを以まして能役者寶生源吉と云ふ者が引取て埋葬を致しました、扱八ッ橋の

親といふ者は其頃淺草鳥越に浪宅を構へて居りました、岩城左京亮浪人山田三右衛門といふ者でございます、此度の事を承り恥入る所と見えて三右衛門は切腹いたしたが元三右衛門へ奉公を致した元助と申しまする仲間が八ッ橋の死體を引取り三右衛門の死體も菩提所へ送りましたのは元助の忠義でございます、佐野次郎左衛門の實家では此度の事を承はり扱は之をしやうが爲に町外にまでなり覺悟をして出たかといふ事が分り何れも菩提を懸に致しました然し今以て絹屋仙右衛門の跡は船橋に残つて居ります、小松原には有益の子孫がございませぬ、先づ是で百人斬の講談は、讀切と仕ります、明日より改めて、徳川家に崇りを致しました村正の刀に就て申上げます。



是から龍土水を以つてシユ〜と屋根へ臨んで水を引き上げましたに依り、宛ら大夕立の如く屋根は一面に濡れて次郎左衛門も歩けばすべりますから底際へ来て、野路へ斯う手を掛けて頭を下げて居る處へ、シー

越「アノ者の面部を臨んづ水を懸ろ〜」
と云ふから其の通りシユと懸る、此の段を後生誤りて油の龍土水を用ひたと申しますが左様な次第ではございませぬ、慶安の頃

にて捕逮致し兼ねたる時は長竿或は鍵乃至は六尺棒の様なる物を持つて召捕るのが天下の御法でございますゆえ、全くは水をシユウと懸けました次郎左衛門困ります、居る處へ同心榎木半助が木梯子の短かいのを以

に致せ、先づ此方から致して指圖のなき内は客迎へる事はならんに依り出入を留置け、今に検視の者出張するであらう」と次郎左衛門は傳馬町の御へ差送り

親といふ者は其頃淺草鳥越に浪宅を構へて居りました、岩城左京亮浪人山田三右衛門といふ者でございます、此度の事を承り恥入る所と見えて三右衛門は切腹いたしたが元三右衛門へ奉公を致した元助と申しまする仲間が八ッ橋の死體を引取り三右衛門の死體も菩提所へ送りましたのは元助の忠義でございます、佐野次郎左衛門の實家では此度の事を承はり扱は之をしやうが爲に町外にまでなり覺悟をして出たかといふ事が分り何れも菩提を懸に致しました然し今以て絹屋仙右衛門の跡は船橋に残つて居ります、小松原には有益の子孫がございませぬ、先づ是で百人斬の講談は、讀切と仕ります、明日より改めて、徳川家に崇りを致しました村正の刀に就て申上げます。

鹽 節 鯉 出 賣

魚問屋

店理代平命生本日大最優最
榮 盛 賀 志
(三一電)目丁四平

市原醫院

平町 田町
電話 一一四番

門 專

産 婦 科
花 柳 病 科

井 坂 醫 院

平町田町 電話五五九番

◎入院隨意

胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥

松前 家傳 靈効散(無効返)

ホントに北海道で出來た靈藥が着荷致しました。今迄のは福島市内で製藥したので兎角の批評がありました。今度のものは眞正のもので奏効確なものです。服用しなくては其の眞價が判りませんから、皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、輕病、心臓、痔疾の方は是非御試し下さい。クセにならず根治致します。見小用の靈効散も出來ました。

定價
試用分(八日分) 五十錢
重症用(四十五日) 四十五圓

平町古鍛冶町縣社、下
阿 康 藥 舖
電話 四四番